

大使コラム（2011 年 7 月）

7 月、リスボンでは本格的な夏がやって来ました。雨を見ることも珍しく、温度は 30 度を超える日もありますが、湿度の少ない晴天の毎日です。

6 月 5 日に議会選挙があり、野党の社会民主党（P S D）が議席の半数近くを獲得し、与党の社会党（P S）は予想以上の敗北を喫しました。ポルトガル議会は一院制で、定員は 230 名です。海外選挙区（4 議席）の集計もあり、結果の確定に時間がかかりましたが、21 日に大統領は P S D のコエーリョ党首を新内閣の首班に指名し、民衆党（C D S／P P）との連立内閣が発足しました。

前内閣では与党が議会で過半数を割っており、財政危機の対応でも野党との関係がしばしば制約になりました。今回は連立与党が議会の過半数を占める安定政権です。

新内閣では、連立与党の C D S／P P の党首が外相に就任しました。財政危機の対応に携わる経済閣僚などに、政治経験の少ない専門家が党外からも起用されたのはやや意外でした。この内閣の課題は、E U などの財政支援の条件である政策合意の履行です。既に、その実施計画は発表されていますが、増税や財政支出削減など痛みの多い政策を実行するには、政権の強いリーダーシップが必要でしょう。この関門をどう乗り越えていくか、よく見ていきたいと思います。

ポルトガル向けの支援財源のために、先月、いわゆる「欧州ファンド（E F S F）」の起債があり、日本も 11 億ユーロ（発行額の 22%）を購入する形で協力しました。1 月にアイルランド向けの起債に、同程度の購入を行ったのに続き、二度目の支援です。当国のマスコミでも報道され、外務省や財務省関係者から、日本に対し深甚なる感謝が表明されました。苦しい時の助けは身に染みる、というのは国際関係でも人間社会と同じでしょう。

右と平行して、両国企業の相互進出を支援するいわゆる「二重課税防止条約」の締結交渉が両政府間で進んでいます。民間投資の促進を通じて、当国経済の競争力強化にも貢献することになれば幸いです。

新政権が発足した日の晩、外相の職を終えたばかりのアマード前外相と懇談する機会がありました。外相時代のご苦労や思い出話をお聞きし、国際情勢についても忌憚ない意見交換を行いました。日本との関係については、経済発展の先達であり、政治、経済体制も共通の日本との協力が、長い歴史的な関係と相まって、ポルトガル外交にとりいかに重要かを力説されたのが印象的でした。当国でも存在感を増す中国との対比でも、日本への信頼感を明言されていました。外相や国防相、副大臣も含めると通算 13 年も閣僚を歴任した前外相ですが、当面は政界を離れ趣味の彫刻などに時間割

けると、ご家族共々も喜んでおられました。

6月10日は、「ポルトガルの日」という名の祭日です。毎年、地方都市を選び大統領主催の記念式典や軍事パレードなどを行い、国家としての存立を祝います。今年は、カステロ・ブランコ市というリスボン北東約200キロの内陸部の小都市で開催されました。式典で大統領は、特に地方の経済格差、高齢化や過疎化の問題に多く言及し、格差是正や地方開発、さらに財政危機の克服に国民の協力を訴える演説を行いました。5日の議会選挙から数日後の式典で、内閣の首班指名が予想されていたコエーリョ党首も会場に来ており、マスコミの注目を受けていました。

先月は、政治の話題が多い月でした。例年ですと、これから当国はいよいよ夏休みの季節ですが、新内閣は発足早々、財政危機の対応に追われることになるでしょう。この動きには、これからも目が離せません。

皆様には、時節柄ご自愛のほどをお祈りいたします。